



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アルファポリス

コード番号 9467 URL <http://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理部部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	1,611	29.9	469	20.2	469	22.7	310	23.9
27年3月期第2四半期	1,240	—	390	—	382	—	250	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	64.08	—
27年3月期第2四半期	62.62	—

(注) 1. 当社は、平成26年3月期第2四半期においては、四半期財務諸表を作成していないため、平成27年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。

2. 当社は、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、平成27年3月期第2四半期の1株当たり四半期純利益を算定しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	4,956	—	3,550	—	—	71.6
27年3月期	4,592	—	3,239	—	—	70.5

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 3,550百万円 27年3月期 3,239百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	12.6	801	1.1	800	3.7	510	12.0	105.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

28年3月期2Q	4,843,700 株	27年3月期	4,843,700 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

28年3月期2Q	— 株	27年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期2Q	4,843,700 株	27年3月期2Q	4,843,700 株
----------	-------------	----------	-------------

(注) 当社は、平成26年8月25日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、期末発行株式数及び期中平均株式数につきましては、当該株式分割が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融緩和政策を背景に、企業収益の改善や雇用・所得環境の改善も見られ、気気はゆるやかに回復しつつあります。しかしながら、中国をはじめとするアジア地域の経済の減速など、海外景気の下振れによる影響も懸念され、依然として不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、出版取次第4位であり、創業100年近くの歴史を誇る栗田出版販売株式会社が、平成27年6月26日に東京地裁へ民事再生法の適用を申請する等、引き続き厳しい状況が続いております。

しかしながら、そのような状況に反して、「インターネット発の書籍」の売行きは、引き続き好調に推移しており、市場の注目度も益々高まっております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、編集部員を強化することにより、インターネット発の書籍化及びその漫画化を加速させてまいりました。加えて、インターネット上に点在する良質なコンテンツの更なる確保にむけ、小説投稿アプリのリリースや、投稿インセンティブ10倍キャンペーン等のイベントを開催することで、堅調に当社Webサイト上のコンテンツ数を増加させてまいりました。

その他に、平成28年1月からTVアニメ第2クールの放送が予定されております当社主力書籍『ゲート』を盛上げるべく、著者であります柳内たくみ氏のサイン会や、コミックスの原画展等のイベントを開催してまいりました。また、平成27年9月30日には、当社初となる自社IPを活用したゲームアプリのリリースも行いました。

これらの活動の結果、当第2四半期累計期間における、出版点数は193点（前年同期比29点増）、新規Web連載漫画本数は17本（同6本増）、及びWebコンテンツ登録数は4,644点（同2,808点増）となりました。また、『ゲート』シリーズ累計発行部数は300万部を突破し、ついに310万部（平成27年10月14日時点）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は1,611,532千円（前年同期比29.9%増加）、営業利益は469,689千円、（前年同期は営業利益390,829千円）経常利益は469,242千円（前年同期は経常利益382,356千円）、四半期純利益は310,398千円（前年同期は四半期純利益250,482千円）となりました。

当社は、出版事業の単一セグメントとなりますが、書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

①ライトノベル

栗田出版販売株式会社が民事再生法適用の申請を行ったことから、同社への出荷は、慎重に判断をいたしました。その結果、売上高の伸び率は、刊行点数の伸び率以下で推移しております。

②漫画

当社主力書籍『ゲート』のTVアニメ化に伴い、関連書籍の売行きが好調に推移したことを主な要因として、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る結果となりました。また、『ゲート』以外の売行きも堅調であり、当第2四半期会計期間に新たに刊行した『異世界でカフェを開店しました。』は4刷、発行部数3.1万部、『THE NEW GATE』は3刷、発行部数3万部となるヒット作品に成長しております。

Web連載漫画化も順調に推移しており、当第2四半期累計期間では、新たに17本のWeb連載を開始し、当第2四半期会計期間末のWeb連載漫画本数は46本となりました。特に、当第2四半期会計期間において、新たに連載を開始した作品には『転生しちゃったよ（いや、ごめん）』や『転生者はチートを望まない』など、最新話の更新日には、1日で約2.5万人超の読者に閲覧されている作品（注）も数多く含まれており、今後の更なる成長の布石を打つことができました。

（注）Web連載漫画『ゲート』の場合、最新話の更新日には、1日で約5.5万人の読者が閲覧しております。

同タイトルを漫画として出版した場合、発行部数は約13万部となります。

③文庫

当社主力書籍『ゲート』のTVアニメ化に伴い、関連書籍の売行きが好調に推移したこと、及び「アルファライト文庫」、「レジーナ文庫」、「エタニティ文庫」からは毎月堅実に一定のラインナップが刊行でき、かつ、売行きも安定的に推移したことで、業績を底支えたことから、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期を大きく上回る結果となりました。

④その他

当第2四半期会計期間に刊行した一般文芸書『居酒屋ぼったくり4巻』の売行きが、引き続き好調に推移し、当ジャンルの業績を牽引いたしました。その他、ライトノベル以外のジャンル拡大の一環として児童書『プリンセスブートキャンプ』や脳科学・自己啓発書『ブレイン・バイブル』も刊行いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ249,684千円増加し、4,767,410千円となりました。これは主に、売上高の増加に伴い売掛金が増加（前事業年度末比242,544千円増）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ114,142千円増加し、188,982千円となりました。これは主に、無形固定資産が増加（前事業年度末比69,457千円増）したことによるものであり、その主な要因はスマホ用アプリ等のソフトウェアの制作費であります。また、『ゲート』のTVアニメ制作委員会に対して出資したことに伴い、投資その他の資産が増加（前事業年度末比45,801千円増）しております。

(負債)

当第2四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ76,085千円増加し、1,328,093千円となりました。これは主に、買掛金が減少（前事業年度末比25,560千円減）する一方で、売上高の増加に伴い返品調整引当金（前事業年度末比49,276千円増）、及び未払金（前事業年度末比102,312千円増）が増加したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ22,656千円減少し、77,937千円となりました。これは全て、借入金の返済に伴い長期借入金が減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ310,398千円増加し、3,550,362千円となりました。これは全て、四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における、現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末に比べ44,816千円減少し、2,430,566千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは37,150千円の収入（前年同期は66,084千円の収入）となりました。この主な要因は、売上債権が242,544千円増加し、かつ法人税等の支払額が194,175千円発生する一方で、書籍売上が好調に推移したことにより税引前四半期純利益が499,835千円計上されたことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは48,791千円の支出（前年同期は28,916千円の支出）となりました。これは全て、スマホ用アプリ等のソフトウェアの制作費等による無形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは33,176千円の支出（前年同期は20,228千円の支出）となりました。これは全て、長期借入金の返済によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の業績予想につきましては、平成27年5月8日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,475,383	2,430,566
売掛金	1,842,596	2,085,140
製品	121,406	142,702
仕掛品	39,469	70,412
その他	38,870	38,587
流動資産合計	4,517,726	4,767,410
固定資産		
有形固定資産	13,033	11,917
無形固定資産	—	69,457
投資その他の資産	61,806	107,607
固定資産合計	74,839	188,982
資産合計	4,592,565	4,956,393
負債の部		
流動負債		
買掛金	111,468	85,908
1年内返済予定の長期借入金	61,312	50,792
未払金	359,377	461,690
未払法人税等	194,175	189,437
賞与引当金	12,574	14,280
返品調整引当金	433,175	482,451
その他	79,925	43,533
流動負債合計	1,252,008	1,328,093
固定負債		
長期借入金	98,915	76,259
繰延税金負債	1,678	1,678
固定負債合計	100,593	77,937
負債合計	1,352,601	1,406,030
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	1,522,315	1,832,713
株主資本合計	3,239,964	3,550,362
純資産合計	3,239,964	3,550,362
負債純資産合計	4,592,565	4,956,393

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	1,240,897	1,611,532
売上原価	390,480	628,382
売上総利益	850,416	983,150
返品調整引当金戻入額	312,814	433,175
返品調整引当金繰入額	363,436	482,451
差引売上総利益	799,794	933,873
販売費及び一般管理費	408,965	464,183
営業利益	390,829	469,689
営業外収益		
受取利息	84	224
中小企業倒産防止共済前納減額金	66	53
営業外収益合計	150	277
営業外費用		
支払利息	894	698
株式公開費用	7,728	-
その他	-	26
営業外費用合計	8,622	724
経常利益	382,356	469,242
特別利益		
保険解約返戻金	-	30,593
特別利益合計	-	30,593
税引前四半期純利益	382,356	499,835
法人税等	131,874	189,437
四半期純利益	250,482	310,398

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	382,356	499,835
減価償却費	249	2,708
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,658	1,705
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	50,622	49,276
受取利息及び受取配当金	△84	△224
保険解約返戻金	-	△30,593
株式公開費用	7,728	-
支払利息	894	698
売上債権の増減額 (△は増加)	△275,238	△242,544
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△16,051	△52,239
仕入債務の増減額 (△は減少)	24,458	△25,560
未払金の増減額 (△は減少)	51,249	34,253
その他	11,127	△36,108
小計	238,971	201,207
利息及び配当金の受取額	84	224
利息の支払額	△894	△698
保険解約による収入	-	30,593
法人税等の支払額	△172,076	△194,175
営業活動によるキャッシュ・フロー	66,084	37,150
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,410	-
無形固定資産の取得による支出	-	△48,791
敷金及び保証金の差入による支出	△27,506	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△28,916	△48,791
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	50,000	-
長期借入金の返済による支出	△66,635	△33,176
株式公開費用の支払額	△3,593	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,228	△33,176
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	16,939	△44,816
現金及び現金同等物の期首残高	712,252	2,475,383
現金及び現金同等物の四半期末残高	729,191	2,430,566

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。